

九大病院だよりは患者さん向けの広報誌です。ご自由にお持ち帰り下さい。

個人情報保護法への対応について

平成17年4月1日から、「個人情報保護法」が適用されます

日本では情報化が進み、コンピュータを利用して多くの個人情報が処理されていますが、その取り扱いを誤ると、取り返しのつかない被害を与えることとなります。マスコミ、新聞等では企業からお客様の情報が流出したこと等を報道しており、プライバシーへの不安が高まっています。このようなことから、国内の大部分の企業や医療機関等に、この法律が4月1日から適用されることになりました。

個人情報とは、生存する個人の情報が対象です。死亡した後も情報を保存している場合には、漏えい、滅失の防止等の安全管理措置を行うことが求められています。個人情報は、氏名、性別、生年月日、住所等に限らず、個人の身体のこと、職種、肩書き等も含まれ、診療録、看護記録、検査記録、X線写真、処方せん、紹介状等です。これらの情報から氏名、生年月日、住所等を匿名化した場合は、個人情報の扱いは受けないこととなります。

本院が患者さん等から個人情報を取得する場合には、必要な情報を特定し、かつその利用目的を院内に掲示したり、文書でお知らせすることを考えています。その内容は、患者さんが受ける医療サービス、入退院の病棟管理、会計、学生への教育協力、他医療機関との連携等を予定しています。（患者さん側から、明確な反対・留保の意思表示がない場合には、その利用目的について、同意が得られている取り扱いを行う予定です。）さらに、患者さん等が疑問に感じたことを何時でも、気軽に、問い合わせができる相談窓口を設置する予定にしています。

4月発足に向けて準備をしていますが、個人の情報保護と医療の安全管理面とのバランスを考えながら、対応していくこととなります。患者さんの一層のご協力とご理解をお願いいたします。



泌尿器科と前立腺癌

泌尿器科は尿を作って体外にだす臓器（腎、尿管、膀胱、尿道）、男性生殖器（精巣、前立腺など）、さらには各種のホルモンを産生する副腎の病気を取り扱う科です。しかし、泌尿器科というとなんとなく昔から性病（淋病）というイメージがあり、あまり受診したくない科と思う方も多かったのではないのでしょうか。そんな背景もあってか、以前は“泌尿器科”ではなくて“秘尿器科”という宛名で書状を頂くこともしばしばありましたが、取り扱う臓器や疾患を考えると、あながち的外れではないという気がします。しかし、さすがに最近はそのような宛名の書状を頂くことはほとんどなくなりました。こと数年前に、天皇陛下が前立腺癌で手術をお受けになられてからは、前立腺癌がマスコミに取り上げられる機会も大幅に増え、一般の方の認識

泌尿器科教授 内藤 誠二

MESSAGE from Seiji Naitou

も深まり、泌尿器科もようやく隣の当たる所に立つことができるようになったという気がしています。

前立腺癌は、欧米では男子成人の各種癌のなかでも高頻度の、極めて重要な癌のひとつです。治療は多種多様ですが、最近では放射能をもつ小さな針を直接前立腺の中に打ち込む放射線療法（前立腺癌密封小線源療法）が注目されています。1週間程度の短期入院で治療可能であり、患者さんへの負担も少ないことから、米国を中心に急速に普及しつつあります。九大病院におきましても、多くの患者さんからこの治療に関するお問い合わせを頂いておりますが、最近ようやく施設認可がおりましたので、近日中に治療開始できるよう準備中です。



今回は、検査部をご紹介します。

検査部は、昭和32年に設立された九州大学病院・中央診療施設の中でも、最も歴史のある臨床検査を行う施設です。「臨床検査」と聞いて、皆さんはどのような印象をお持ちでしょうか。血液や尿を材料にして病気の診断や治療を行うためのデータを提供する、これが最も一般的な印象かと思います。

当検査部ではお預かりした検体を、患者さんをお待たせすることなく迅速に測定し報告するため、最新設備を備えた信頼性のある自動機器類を利用して測定しています。検査部では、化学、免疫血清、血液、凝固の4つの検査室を統合した総面積約1,100㎡をもつ検体検査室に検体が搬送されてきます。それらの検体は直ちに自動的に遠心分離・採血管キャップの開栓・試料分注され、目的とする搬送ラインに検体が運ばれます。搬送ラインには処理能力と精度の高い自動分析装置が連結されており、目的とする測定を行います。この搬送ライン・分析装置システムにより、一日平均2,000検体の迅速処理が可能になりました。

一方、検査部で測定された検査データが適切に測定されているかどうかを臨床検査技師（すべて国家資格取得者）が判定し、適切な検査結果ができているのを確認後、主治医に報告します。このようにして主治医は、患者さんの検査データを見ながら診察できるようになっています。さらに、検査部では入院、外来を問わず24時間、365日、休むことなく精度の高い検査データを提供しております。このほか、大学病院検査部の使命として、特殊検査も多数実施しています。例えば、血液凝固異常を調べる遺伝子検査を含む血栓性素因検査やミトコンドリア遺伝子検査、血液腫瘍検査、ヘモグロビン異常症検査などです。検査部のより詳細な情報は、ホームページ（<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/cclm/>）をご覧ください。（検査部 部長 濱崎 直孝）

花粉症について

花粉症とは、植物の花粉が原因となって、くしゃみ・鼻みず・鼻づまりなどのアレルギー症状を起こす病気です。現在、日本人の5人に1人が花粉症だと言われており、日本では約50種類の植物により花粉症を引き起こすと報告されています。代表的なものは、スギ、ヒノキ、カモガヤ、オオアワガエリ、ブタクサです。今年もスギ花粉症の皆さんには、つらい季節がやってまいりましたが、ちょっとした工夫で、つらい症状を緩和することができますので参考にしてください。まずは、花粉を寄せつけないことです。最近、インターネットで簡単に花粉情報を入手できるようになりましたので、花粉の飛散の多い日には外出を避け、窓を閉め、洗濯物は外に干さな



いようにしましょう。外出時には、帽子・メガネ・マスク・マフラーを身につけ、花粉を払い落としやすい服装をして下さい。帰宅したら洗顔と嗽をし、掃除も頻繁にして下さい。また、最近は副作用の少ない薬が多数あり、花粉の飛び始める2週間くらい前から薬の服用を始めると、症状をコントロールしやすく、そのシーズン症状を軽くすることができますので、毎年症状がひどい方にはお勧めです。今年は福岡では、昨年の猛暑影響で前年より約25倍、例年に比べると2倍以上のスギ花粉が飛散すると言われておりますので、自分にできることは積極的に取り組み、憂鬱なシーズンを乗り切りましょう。（耳鼻咽喉科 小池 浩次 TEL:092-642-5681）

内視鏡外科手術トレーニングセンターについて

昨年末、九州大学病院に「内視鏡外科手術トレーニングセンター」を設立いたしました。内視鏡外科手術は、内視鏡を使って、小さな傷で行う手術で、従来の手術に比べて、患者さんに対する負担を軽くできます。患者さんにとっては、回復が短時間ででき、早く社会復帰ができる反面、手術を行う外科医には高度な技術が要求されますので、より安全で確実な手術を行うためには、専門的なトレーニングが必要であると考えられます。当センターは国内のみならず、アジアの外科医を対象に、内視鏡外科手術の基本手技から応用まで、科学的なデータに基づいたカリキュラムに沿ってトレーニングをし、優秀な内視鏡外科医の育成と、手術の安全性の向上を目的としております。患者さんが安心して内視鏡外科手術を受けていただけますよう努力してまいります。

（九州大学次世代低侵襲治療学講座 助教授 田上 和夫）

絵本とおはなしの会ボランティア活動

私どもは、小児科病棟で絵本の読み聞かせをさせて頂くことになりました「おはなしボランティア」です。

嘗てわが子と過ごした病院生活で感じたことは、長期入院の子供たちにとって、病院は生活の場そのものであるということでした。

身体は病気でも、心は元気な普通の子供たちです。入院中であっても、子供らしい時間を持って欲しい、楽しいことに接して欲しい。そんな思いで小児科の門を叩きました。

絵本・おはなしを通して、ぬくもりある時間、心の底から笑える時間を共に楽しみ、心の元気を応援できたらと願います。

おもしろい時にはお腹の底から声を出して笑う。あの笑顔は最高です。

先日のおはなし会は、子供たちが紙芝居を演じ、私たちは聞き手に回るといった思いがけなく楽しい会になりました。温かな時間が流れ、元気をもらって病院を後に致しました。

井上 幸子

平成15年の夏から参加させていただきました「へんへん」のメンバーの一人です。月1度、入院中のお子さんたちに、絵本の読み聞かせ、紙芝居等をして少しでも楽しんでもらえたらと願っております。

実のところ、入院中のお子さんたちに、どう接したらよいのかなという不安がありました。何度か来院して、この活動をしているメンバーから、「いつも図書館でしている「おはなし会」と同じ感じがいいのよ」と言われて、肩の力を抜いたところです。

去年は参加出来ませんでした。今年はお子さんたちと一緒に、楽しい一刻を過ごせたらと思っております。どうぞ、よろしく。

伊藤 光子



別府先進医療 センター

産婦人科

産婦人科専門診療科は、女性を診療する科です。当科は温泉治療学研究所の産婦人科部門として、昭和29年より、生体防衛研究所生殖内分泌婦人科を経て、現在のゲノム診療科、がん治療科、産婦人科専門診療科にいたっております。これまで主に婦人科悪性腫瘍の診療に携わってきました。子宮頸癌、体癌、卵巣癌など婦人科領域の悪性腫瘍に対して、手術療法、放射線療法、化学療法などを用いた集学的治療を行ってきました。また体外受精は行っていませんが、婦人内分泌学の知見を元に、不妊症治療にも力を入れております。これまでは、中高年女性特有の疾患を診る「中高年外来」、産科診療を行う「産科外来」を開設しておりましたが、昨今の産婦人科医師不足のあおりを受け、担当する専門医師の不在により、両外来を2月より休止せざるを得ない状況です。特に産科医療に関しては人手不足が顕著で、新生児診療を担当できる科のない当院においては、分娩を取り扱うには診療の質の維持が困難で、これ以上産科診療を継続できないのは残念です。今後は慢性疾患診療にシフトしていき、ゲノム診療科という特性を生かした、個人の特性に合わせたオーダーメイドのがん医療に重きを置いた診療を行っていきたいと考えております。

(産婦人科 科長 和氣 徳夫 TEL:0977-27-1703)

摂食・嚥下機能支援外来について

いま、口から食べたり飲んだりすることの大切さが再認識されています。口からの刺激が脳を刺激するといわれ、また、口から食事が入り胃や腸で栄養を吸収することが重要であることがわかってきたからです。

●摂食嚥下支援外来とは・・・

食べ物を口に入れたり(摂食)、飲み込んだり(嚥下)することに困難や障害をお持ちの患者さんの診察と診断および摂食・嚥下のリハビリテーションを専門的に行うチームです。

スタッフは歯科医療センター内の顎顔面口腔外科、咬合治療科、義歯科、口腔ケア・予防科、小児歯科、口腔画像診断科、口腔総合診療科の歯科医師のほかに、看護師、栄養士、言語聴覚士などから構成されています。患者さんやご家族から相談や問い合わせがあれば、これらのスタッフが診察・口腔機能の評価・リハビリテーションを行います。耳鼻咽喉科の『音声嚥下外来』とも連携を図っています。

●受診・診察のお申し込みは・・・

いまのところ専用の診療室がありませんので、歯科医療センター2階の顎顔面口腔外科の外来(窓口番号24番)を主な診察申し込み窓口としています。最寄りの担当医が診察をした後に、必要に応じて診査や検査を行い、摂食・嚥下機能支援外来の患者として治療が始まります。

九州大学病院に受診中または入院中の患者さんは、主治医の先生もしくは地域医療連携室にご相談下さい。歯科医療センターでの受診が困難な場合には、こちらから往診をすることもできます。

(顎顔面口腔外科内 摂食・嚥下機能支援外来主任 大部 一成 TEL.092-642-6450)

お知らせ

患者さんが、癒されることを願って、南棟2階ホスピタルストリートに絵画、写真等を掲示しています。

作品を掲示頂ける方がございましたら、患者サービス課(電話5981)までご連絡願います。

外来診療日一覧

ご用件がありましたら、下記の診療科等に直接お電話願います。
(市外局番は「092」です)

階	科名(電話番号)	初診日	再診日	階	科名(電話番号)	初診日	再診日	診療施設等	電話番号
1	総合診療部 (642-5300)	月～金	月～金	1	第二外科 (642-5479)	月・水・金	月・水・金	救急即受付	642-5873
1	内科(初診) (642-5300)	月～金	月～金	1	整形外科 (642-5504)	月・水・金	金	時間外受付	642-5163
2	内科(再来) (642-5302)			2	脳神経外科 (642-5533)	月・水・ 金	月・水・ 金	総合外来受付	642-5138
1	臨床遺伝医療部 (642-5421)	月～ 金	金	2	心臓外科 (642-5565)	月 水 木	水 木	入院受付	642-5149
1	先端分子細胞治療科 (642-5996)	月～金	月～金	2	小児外科 (642-5578)	月・水・金	月・水・金	公費申請受付	642-5167
2	心療内科 (642-5335)	月・木	火 水 金	2	皮膚科 (642-5596)	月・水・金	火 木	地域医療連携室	642-5165
2	神経内科 (642-5349)	火 木 金	月・水	2	泌尿器科 (642-5615)	月～金	月・水・金	支払い窓口	642-5169
2	循環器内科 (642-5371)	月～木	月・水	1	精神科神経科 (642-5640)	火 木	月～ 金	リハビリ受付	642-5862
2	呼吸器科 (642-5388)	月・水・金	月・火 水・金	1	眼科 (642-5660)	月・水・金	月～ 金	医療相談	642-5914
2	産科婦人科 (642-5409)	火・木	月～金	2	耳鼻咽喉科 (642-5681)	火 木	月 水 金	在宅療養指導室	642-5185
2	産産母子センター (642-5900)	火・木	月～金	1	放射線科 (642-5705)	月・水・金	月～金		
2	小児科 (642-5430)	月～金	月～金	2	麻酔科蘇生科 (642-5719)	月・水・金	月・水・金		
1	先端医工学診療科 (642-5993)	月～金	月～金	別館	歯科医療センター (642-6268)	月～金	月～金		
1	第一外科 (642-5453)	火・木・金	火・木・金						

※○印の曜日は予約が必要です。

- 休診日
土曜日、日曜日、祝日、
年末年始(12/29～1/3)
- 受付時間(窓口)
8:30～11:00
自動再来受付機
8:15～11:00
- 外来玄関開閉時間
7:00～18:00

- 注
- 予約がある場合はこの限りではありません。
 - 再来の方でも、1年以上受診されていない場合には、初診の曜日・時間となる場合がありますので、あらかじめ受診科「外来」にお確かめ願います。

(代表) 092-641-1151

〒812-8582
福岡市東区馬出3丁目1番1号



病院にお越しの際は保険証をお忘れなく!

※保険証の提示がない場合には、保険の取扱いができません。

ご意見・ご感想を電子メール(ibs_koho@jimu.kyushu-u.ac.jp)
または外来棟玄関の「ご意見箱」にどしどしお寄せください。お待ちしております!

